

中学生被爆地派遣事業(長崎市)

本市は平成元年度から「中学生被爆地派遣事業」を行っており、毎年広島市へ市内中学生を派遣してきました。

そして、平成30年度からはもう一つの被爆地である長崎市へも派遣を開始し、今年度は中野市立高社中学校の生徒4名、引率教諭1名の計5名を平和使節及び生徒指導員として派遣しました。

主催：中野市教育委員会

問合せ：(メール) kyoiku@city.nakano.nagano.jp

(電話) 0269-22-2111 (内線 419)

**中野市の平和について考えよう！！****～十三崖弾薬庫との出会い・事前学習会～****令和元年7月19日 中野市深沢にある十三崖弾薬庫で学習****十三崖弾薬庫学習(講師紹介・説明)**

- ・実際に中野市にある十三崖弾薬庫に出かけました。講師の先生(涌井さん)から、十三崖弾薬庫ができた経緯などについて様々な説明を受け、平和について学習しました。

事前学習

- ・平和や戦争について、十三崖爆薬庫で学んだことや、仲間と意見交換をして、長崎での発表スライドを作成しました。



十三崖弾薬庫での学習

**青少年ピースフォーラムへ参加しました！！****～報告会&全校集会で発表～****報告会：8月29日 中野市役所会議室にて開催**

- ・報告会に向けて、発表資料・原稿の作成
- ・中野市市長に報告したり、他校の生徒の発表を聴いたりして、平和についてさらに深く考えました。

全校集会での発表 10月28日 高社中学校

- ・「長崎交流報告」を全校集会で全校生徒の前で発表

【長崎へ訪問した生徒の決意・感想】

- ・この長崎の派遣で、戦争の怖さが今までの倍になりました。これからは自分たちが子供たちに戦争の怖さや、一日一日を大切にしようと思えていこうと思います。これから戦争を起こさないようにしていきたいです。
- ・二日間を通して、今まで学んだことのないことを聞いたり、見たことのない遺跡や写真から戦争の悲惨さや原爆の怖さを感じたりしました。また、私たちが学んだつもりでいた平和についてとは、ほんの一部でしかなくて、小学生のときからずっと平和学習をしている長崎のみなさんと、私たちでは平和や戦争の悲惨さを語り継いでいかなければいけないということへの意識が違っていました。今回長崎に行ったことで、とても深く学ぶことができてよかったです。
- ・長崎に行ってきた、あらためて戦争の怖さ、原爆の恐ろしさが身に染みて分かりました。これからは、僕も子どもたちに戦争の恐ろしさを伝えていきたいです。
- ・台風の10倍以上の爆風で人が飛ばされる。黒い空から黒い雨が降り、14万人が地獄のような思いをした。私たちはそのたくさんの犠牲の中で生きている。戦争の悲惨さは日本中にさらに世界中に伝えていくには、一人ひとりが語り部の覚悟をもつことが必要だ。戦争の悲惨さを少しずつ発信していき、核のない世の中をつくらしていきたい。



報告会